

## 平成 30 年度市民対話集会（第 2 回）

- 1 日 時 平成 30 年 7 月 9 日（月）午後 7 時～午後 8 時 10 分
- 2 場 所 竜王 4 区公会堂
- 3 参加者 本竜王地区自治会合同会議（竜王一・二・三・四区）39 人
- 4 対応者 保坂市長、内藤副市長、輿石企画政策部長
- 5 説明員（担当部署） 本田福祉部長、飯沼長寿推進課長  
早川長寿あんしん係長、藤原介護予防推進係長
- 6 事務局 丸山秘書政策課長、大木総合政策係長、相川
- 7 対話テーマ 「2025 年問題 ～未来を考える～」
- 8 内 容

○ 当番区長あいさつ

・2025 年には 5 人に 1 人が高齢者となる。「2025 年問題」は本竜王地区でも避けられない問題であり、今回テーマとしたのは、地域の皆さんに自分事として考えてほしいと思ったからである。

○ 市長あいさつ

・今回テーマである「2025 年問題」は高齢化が進んでいる本市においても重要な問題であり、行政だけではなく市民も巻き込んで考えていかなければならないテーマである。

・釜無川は平成 18 年には甲斐市の土手近くを流れていた。平成 20 年には河川区域の中央部を水が流れるようにしたが、平成 27 年には甲斐市側と南アルプス市側に分かれるような形で中央部に小島ができた。

・水流を中央部にすることで、およそ 10 年は安全になると考えられるため、国土交通省に中央部の小島の掘削を依頼した。

・信玄堤は皇太子様が国連の基調講演で「人と自然が調和した堤防」と紹介した。

・今年度、国土交通省と消防団の協力を得て 4 基の聖牛を製作、設置した。

○ 2025 年問題 ～未来を考える～

（資料をもとに長寿推進課長より説明）

・日本及び甲斐市における高齢社会の現状

・地域包括ケアシステム及び地域支援事業の概要。地域における医療と介護の連携や地域を基盤とした支え合い、助け合いの体制を構築する。住民が主体となって地域で支え合う仕組みを、時間をかけて作っていく必要がある。

・甲斐市におけるこれまでの取り組み。地域フォーラムと市民ワークショップにおい

て、地域の課題やニーズを共有するというプロセスを経て、本年3月には「甲斐市ささえ合い推進会」を発足した。今後は地域ごとにさらに分化してこの取り組みを進めていく。

- ・全国の先進的な取り組み事例

#### ○ 質疑応答

問 市から提供される「避難行動要支援者名簿」で一人世帯の高齢者や要支援者等を区長や民生委員等で共有している。しかし災害時には誰が、誰を、どのようにしてというような具体的なものがない。災害時において、行政はどのように支援をしてくれるのか。

答 災害時における支援では、よく「自助・共助・公助」といわれる。行政では「公助」の部分を担当が、行政からの支援は災害の発生直後には、行き届かないことが想定される。まずは皆さんには「自助」「共助」の部分で、「避難行動要支援者名簿」をもとに地域の皆さんでの助け合いをお願いしたい。

問 2025年までの年次計画など具体的な取り組みなどを示してほしい。

答 市では、本年3月に第1層協議体として「甲斐市ささえ合い推進会」を設立し、今年度から市内11小学校区ごとに第2層協議体の設立を進めるとともに、その後第3層として地域の皆さんが主体となって支え合い、助け合いの役割を担っていただくことになる。行政では、地域住民が行う、支え合いの体制作りのバックアップをするものである。全国の事例から見ても行政からの指示で行う取り組みは長続きしていない。地域住民で率先して実践をすることが重要であり、皆さんにも取り組みの推進をお願いしたい。

午後8時10分終了